

平成27年度第1回小金井市食育推進会議 会議録

日 時 平成27年5月21日(木) 午後2時5分～午後3時20分

場 所 保健センター1階大会議室

出席委員 12人

会 長 南 道 子 委員
委 員 酒 井 文 子 委員 雀 部 かおり 委員
委 員 鈴 木 祥 江 委員 高 木 有 希 委員
委 員 鳥 羽 浩 子 委員 松 嶋 あおい 委員
委 員 吉 田 千 晴 委員 菊 谷 武 委員
委 員 土 屋 直 己 委員 松 井 大 平 委員
委 員 齊 藤 幸 穂 委員

欠席委員 4人

島 崎 聡 子 委員 志 田 尚 紀 委員
渡 辺 悟 委員 柿 崎 健 一 委員

事務局職員

健康課長 高橋啓之
健康課 平岡美佐
健康課 田中昌子

傍聴者 0人

(午後2時5分 開会)

○南会長 皆さん、こんにちは。定刻を過ぎましたので、始めさせていただきたいと思います。お忙しい中出席していただき、ありがとうございます。

それでは、これより平成27年度第1回小金井市食育推進会議を開催したいと思います。

初めに、委員の出欠に関して、事務局のほうからお願いします。

○平岡主査 本日の委員の方々の出欠でございますが、志田委員、島崎委員、渡辺委員、柿崎委員の4名の委員から欠席の御連絡をいただいております。ただいま、おくれて高木委員と菊谷委員がこちらのほうに向かわれているということですので、現在、会長を除きまして、本日出席予定の方2名を含めまして11名の委員の方の出席予定となっております。こちら、過半数以上の出席の予定の会となっておりますので、審議会としては成立することを御報告いたします。

それから、お手元の資料についてでございます。本日、机上に配付させていただいたものとして、次第、それから、キッズカーニバルのチラシ、食育ホームページのチラシ、前回の食育推進会議の会議録案をお配りしております。また、JAの松井様の方から追加の資料、こちらの方と、あと、菊谷委員の方から頂きました資料を配付してございます。お手元に資料がない方はいらっしゃいますでしょうか。

また、前回の会議資料についてもお持ちいただきたい旨、開催通知では御案内させていただいております。

過不足等がございましたら、事務局のほうにお願いいたします。もし、今、食育推進計画のほう、お手元がない方、よろしければ、大丈夫でしょうか。

○南会長 よろしいでしょうか。

では、議事に入る前に、事前に皆様のところへ送付されている前回の議事録案で、御自身の発言内容を確認していただけたと思うのですが、もし訂正などがありましたら、この場でお願いいたします。

○平岡主査 本日まで訂正いただいた箇所に関しましては、反映をさせていただいております。

○南会長 それでは、この案でよろしい方は挙手をお願いしたいのですけれども。

ありがとうございます。もしまた何か気がついたことがありましたら、終了までに事務局のほうにお願いいたします。

続きまして、意見・提案シートについて、事務局からの報告をお願いします。

○平岡主査 本日の会議に関する意見、提案はありませんでした。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

では、本日の議事に入ります。次第のとおりですが、1番目、「食育推進計画の各論について」と、2番目、「自主的勉強会の開催について」、それから3番目、「食育行事について」の、以上3点です。

それでは、議事に入ります。まず1点目の「食育推進会議の各論について」、①の「“Kogane i - S t y l e” の地域展開～生産者・事業者・団体の連携強化～について」です。まず、生産者の食

育活動に関する促進策について、次に、事業者の食育活動に対する促進案とか促進策、各種団体などの食育推進活動に対する促進策について、順番で審議したいと思います。

それでは、概要について事務局からお願いします。

○平岡主査 それでは、「“Koganei Style”の地域展開～生産者・事業者・団体の連携強化～」について、簡単に説明させていただきます。

食育推進計画の20ページをご覧ください。この施策は、「野菜」、「団らん」、「ふれあい」、「環境」をキーワードとして、豊かで健全な小金井らしい食生活のひと・まちづくりを地域展開していくことを目的としており、生産者・事業者・各種団体等の食育活動の促進及び連携の強化を目指しております。また、この小金井らしい食生活の実現に向け、今期の食育推進計画の取り組み指標に、食生活に地産地消を取り入れるとの項目が新たに追加されております。

本日御出席の委員の方に、ここに掲載のある事業内容について活動されている方がおられますので、その内容の紹介やお考え等を御発言いただければと思います。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

では、生産者の立場で行っている食育啓発活動の取り組みなどを御紹介していただきたいと思います。生産者と市が共催で行っている事業などありますでしょうか。

○平岡主査 小金井市農業振興連合会主催、小金井市、東京むさし農業協同組合、小金井市農業委員会の共催で、毎年11月ごろに農業祭を開催しています。小金井産の野菜・果物の販売や、江戸東京野菜の紹介コーナーがあり、多くの方が訪れ、御好評をいただいております。

○南会長 ありがとうございます。小金井市農業振興連合会から土屋委員が出席されていますので、生産者のお立場でぜひ発言をお願いいたします。

○土屋委員 農業祭に関しては、数年前から駅前のほうでやるようになり、人の流れのあるところということで、大分認知度も高くなり、こちらとしてもすごくいい評価になっているのではないかなと思っています。

宝船などを作製し、市民の方に配布しているとか、品評会——生産者が小金井で生産した野菜を、いいものを並べて紹介して、翌日にはなりますが、それを市民の方に販売しているという流れをしています。植木なども含めてですが、同じような流れで品評会をやって、いい植木などから多分早くから売れているのではないかなとは思っています。

○南会長 それはいつぐらいに開催というか。

○土屋委員 毎年11月の半ば、今年は、たしか11月の2週目だと思いましたね。そうですね。11

月の2週目、14、15で、土日で行われます。

○南会長 どちらもでしょうか。植木のほうも野菜のほうも。

○土屋委員 そうですね。同じところで一緒に行われます。

○南会長 わかりました。ありがとうございます。

それでは、次に、生産者の食育活動に対する促進策の事業として、江戸東京野菜の普及促進が挙げられていますけれども、松嶋委員から一言お願いできますか。

○松嶋委員 江戸東京野菜も小金井市の特産品になっておりますので、江戸東京野菜でまちおこし連絡会という会議を設けまして、月1回ほど会議をしております。そして、その中で年3回、江戸東京野菜を食べるフェアを、春、夏、秋というふうにしておりまして、今度、秋は井フェア、春はお花見弁当フェアで、ことし夏は行われないのですけれども、寺島ナスを食べるという会もしております。そのときに、酒井先生と一緒に料理教室などもフェアに合わせてしたり、私のやっている農家みちというところで、大堀さんという生産者の方の農場見学と、みちを歩いて、その後、お料理店で江戸東京野菜入りのお弁当を食べるといふことも、この間の春にはいたしまして、そういうことで、料理教室やそういうツアーなどで市報に載ったりしますので、非常に周知に役立っているというふうに思っております。

いろいろなお店の方とか農家の方の連携のほうでそのフェアが行われているのですけれども、課題としては、フェアの間に、伝統野菜ですのでなかなか確保が難しく、各店舗が毎年野菜が手に入らなかったとか、そういうようなことも聞かれるので、今後、この辺の野菜の確保、お店との連携を強めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

学校と生産農家の連携というのは、

○松嶋委員 江戸東京野菜の食育については、第一小学校と東小学校で、江戸東京野菜と普通の野菜の食べ比べをしたり、第一小学校では、今度土屋委員に御協力していただいて、寺島ナスの植えつけをして、子どもたちに収穫体験をしてもらいます。秋は、できればですけれども、亀戸大根を植えて、自分たちで収穫して、それを食べるときに、普通の青首大根と伝統大蔵大根の3種の食べ比べをして、それは毎年酒井先生と行っているのですが、非常に好評で、子どもたちに伝えて、保護者の方に伝えていただくようにして感想をいただいているのですが、保護者の方から、子どもが、帰ってきて野菜の話をすごく一生懸命するのでびっくりしましたというような感想をいただいて、それも非常に周知に役立っていると感じています。

○南会長 小学校はその2校ですか。

○松嶋委員 今のところその2校で、あと、私が、中学校のほうには中学校の技術家庭の先生方に説明に行きまして、何とかして部活だけでもいいから取り入れたいというふうにおっしゃっていただいているのですが、ほかの小学校に関してはまだ授業に行けていない状況ですので、できれば全校、何らかの形で江戸東京野菜の授業をしに行きたいというふうには考えております。

○南会長 学芸大の附属小学校は、

○松嶋委員 学芸小学校のほうはイレギュラーなのですけれども、たまたま知人のお子さんがいたので、その方から頼まれて、そのクラス、1クラスなのですが、授業をしてきました。やはり興味はすごく高く、「絶対食べてみたい」みたいな声があるので、生産がもう少し順調に品物が出てくれば、入れてくるのではないかなという手応えはあるのですけれども、やっぱり伝統野菜の難しさで、順調に収穫というのが、出荷というのがなかなか難しいのかなというふうに感じています。

○南会長 ありがとうございます。

そのほかに、生産者の食育活動に対する促進策について何か御発言はありますでしょうか。

それでは、先ほど配っていただいたこの資料、もしよろしかったら説明をしていただけるとありがたいのですが。

○土屋委員 これ、小金井地区青壮年部のほうで、子どものジャガイモの収穫体験や植木の学習、農家のイチゴ栽培（ビニールハウス）についての学習というように、職業体験の場、職業の場に、来てもらった子どもたちにこれを渡しているのですが、内容が、振り仮名が振ってありながら、ちょっと子どもには難しい内容にはなってしまうかなというところはあるのですが、一応、紹介ということで、親にも渡して見ていただければなと思い、毎回、来ていただいた子どもに渡しています。

先ほど話にあった寺島ナスの栽培の学習が一番上の写真になりまして、真ん中にあるジャガイモの収穫体験はうちの農場のほうで、1年生と2年生が来て、芋掘りの体験をしています。本当は芋掘りも初めからやっていただくほうが、こんなものがこんなふうになるんだというのがわかっていいのでしょうけれども、なかなかそこまでは時間的なものとか、やはり毎回こっちのほうまで子どもが来るのも大変な話でもあるので、学校のほうでもちょっと難しいのだろうなと思うので、一応、掘ったときに、芋がいっぱい出てくるところだけでも見てもらえればなと思って、子どもも喜んで掘っているので、人の分までとってしまったりもして大変だったりもするんですが、これ、狭い間隔でやっているの、子どもが一生懸命掘るとどんどん後ろのほうに芋を放り投げて、後ろの子どもが自分の袋にどんどん入れたりとかして、「なくなっちゃった」とか言っている子どももいたりして、掘るのが楽しいからいいのかもしれないのですが、最後、こんな重たい袋を持っていつも帰るといので、にこにこした顔で帰ってくるので、すごくいいのではないかなとは思っています。

ほかの体験は、寺島ナスも初めだけ、植えつけのときに一生懸命子どもにやってもらうのですが、それ以外のところは僕は参加していないというか、行っていないので、どんなふうに行っているかはわからないのですが、一応、こういうのを配布しています。

渡辺委員が今回欠席ということで、その分の補足的なことで、ほかの、JAのほうでも食育的な活動というのを聞いてきたので、紹介します。毎年何回やっているかまでは聞いていないのですが、市報にて30名ほど募集して、女性部のほうで料理講習会なども行っているようで、地元の野菜を使って一緒に料理をつくるという、30名ほど募集をかけているそうです。ことしは一応、7月2日に実施予定で、市報には6月15日号に載るとのことなので、次の市報か何かには載ると思います。会場は緑分館で行っていて、レシピはJAの厚生連の栄養士と女性部で考えてやっているそうなので、もし興味があればぜひ参加していただければと思います。

また、そのほかに、横浜港に輸入野菜の現状の視察というのも農協のほうでやっています、都市農政推進協議会のほうで、これも市報にて30名ほど募集をかけているそうなのですが、横浜のほうに、輸入野菜の保存方法や添加物、農薬について考えるというような感じで視察を行っています。向こうでもちゃんと講師がついて説明してくれて、海外へ行くとショックを受けるような内容というふうに聞いています。ぜひ、行っていない方はなるべく行ってもらえるというぐらいに、いいというか考えさせられる内容ということなので。実は、申しわけないのですが、僕はまだ行っていないのですよ。行く機会がなくて、まだ行けていなくて、今年は9月18日に一応行われるということで、これも同じように市報に掲載されるのですが、まだ先なのでいつ載るかは決まっていなそうなのですが、それもぜひ興味があれば参加していただければということをおっしゃっていました。

そのほか、収穫体験と、あとは、農協のほうや農家のほうに、中学生の職業体験というのも行っているそうです。

以上が大体、農協のほうの食育的な活動になります。

○南会長 ありがとうございます。

では、次に、事業者の食育活動に対する促進策について、東京都多摩府中保健所から参加いただいている齊藤委員に発言していただけるとありがたいのですが。

○齊藤委員 齊藤です。事業者の食育活動に対する促進策の中の、食品の情報発信というところなどについて……。

○南会長 何ページになりますか。

○齊藤委員 22ページです。四角の枠の中の3番目の、「食品の情報発信」というあたりの関連で、一言、お話しさせていただきます。

保健所で、今年度から、栄養・食生活ネットワーク会議というものを考えております。この会議は、小金井市様も含めた多摩府中保健所管内6市における市民の食生活の向上に向けて、関係機関、団体の皆様と検討・実践していくことを目的としたもので、食生活の中でも、特に都民の約6割が、野菜の摂取量が目標量に達していないという現状がございますので、野菜摂取量の増加と、野菜がとりやすい環境整備について検討したいと考えております。

これからスタートしますので、また始まりましたら、こちらの会議でも御報告させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○南会長 ありがとうございます。

では、次に、事業者の立場から、食育活動の実際について、松井委員に御報告させていただければと思います。

○松井委員 資料、お持ちしたファイルに入っているやつです。中、2つに分かれていまして、後ろのほうの、これは宣伝ですので、後で見てください。

こちらのどばっと入っているやつなのですが、これ、去年の秋口に3回、それと春にこのイベントという形で1回ということで、連続のイベントとして行ったものです。これ、あくまでも食育という観点で始めたものではなくて、通常、商店街だとか商工会だとかのお祭りというのは、商店街全体とかをPRするようなイベントというのが多いのですけれども、個別のお店を少しくローズアップするようなイベントを組みたいなと思ひまして、手を挙げていただいたのが何店舗かありましたので、そこと一緒にやらせていただきました。

1つが、まさ竜さんという和食というか、今、揚げ物を中心でやっていらっしゃるのですけれども、もともとは和食のレストランとか料亭さんとかで修業された方のお店で、特に日本酒を切り口にしたイベントを行いました。まさ竜の大将は、日本酒は温かく燗をして飲んでほしいんだということを強く訴えていまして、それに合うというか、お料理に合う日本酒を選んでいただいて、3種類選んでもらって、冷やと燗で飲み比べをしてもらおうと。それに合わせてお料理のほうをつくっていただいております。料理の内容等はこちらの……、ですね。写真も一応つけてありますけれども、簡単なものからちょっと凝ったものまでいろいろと出していただきました。

これは、全部で10名を募集して、開催しました。中というか、来られた方は、女子大生から、昔の女子大生というか、本当、70代ぐらいの方まで幅広く来ていただいて、ほとんどが顔見知りでないような方が来ていましたけれども、これは昼間の3時からという、非常に無茶な時間帯で開催しているのですが、3時から5時までということで、べろべろに酔っぱらって5時には街に出ていって、そのまま飲みに行ってしまった方もいらっしゃったようですけれども、結構意気投合されて、その後仲よくなっ

て出かけるようになったんだよとか、そういうようなお話も聞いていますので、町の地域コミュニティづくりというか、そういった観点からもよかったのかなと思います。

これはあくまでも大将の思う、食べさせたい料理をつくるというのが目的で、それを食べてもらうというのが主だったのですが、ここの大将なんかは、例えば、お子さん連れのお客さんが来たときなんかは、カウンターを除いてもらって、見えるようにやってくれたりとか、そういうような形で協力をしていただいています。なので、テーマの与え方ですね。例えば、親子の料理教室的なものとか、そういったものなんかをやってくださいよというようなテーマを与えると、パターンもそれに合わせていろいろ、こういうふうにするんだよとか、こういうふうにするんだよとか、下ごしらえはこうするんだよとか、だしはこういうふうにとるとおいしいんだよとか、そういったことを教えてくださいとお願いします。

これが第1弾ということで、その後、続いて、和菓子の伊勢屋さんですね。上生菓子ではなくて、いわゆるお団子だとかおまんじゅうだとか、おにぎりとかも売っているようなそういう和菓子屋さんが商店街にありまして、その方の御指導で、みたらし団子と道明寺——桜餅みたいなやつですね——をつくりましょうというようなイベントでした。これはどちらかという、お子さんが多いのかなというようなイメージで最初からやっていたので、半分ぐらいはお子さんが来て、小学生、幼稚園の方もいらっしまったかなという感じでした。きたまちセンターをお借りしまして、実際に、ある程度つくった状態も含めて持ってきていただいて、やりました。

みたらしをつくるのというのは、割と材料も少なく簡単だと思うのですが、やっぱりでき上がりには差があるんですね。皆さんにつくってもらくと、同じようにやっていたはずなのですが、べたべたになってしまったりとか、すごく上手にしている方もいらっしまった。そういう差がありまして、結果的には買って食べたほうが早いという話になってしまうのですが、そういう、私たちとしては、プロはやっぱりプロなんだなというところをわかっていただければ一番ありがたいというか、そこのお店の味というものをちょっと知ってもらったりとか、本当に顔見知りというか、飲食店とか、食料品店でもそうですけれど、入ったことがないところはなかなか行きにくいというのがありますので、顔見知りの関係であることによって、今後の商売につながるということでやっています。

参加費は、これに関しては1,000円ですね。大人が1,000円、子どもが500円ですが、つくったものは全部持って帰っていただくのと、御厚意でいろいろそちらの商品もいただいたので、全くプラスというか、で帰っていただいているような状況です。

先ほどのまさ竜さんのほうも、3,000円だけいただいているのですが、割と多分、3,000円以上の価値があったのではないかなと思います。

こちら辺のイベントの楽しそうなつくりというかは、我々商売をする人間は割と得意としているとこ

ろなので、例えば、市のイベントで料理教室みたいなものとかも、ちょっとアレンジを加えると、もうちょっと参加してみようかなとか、例えば、独身男性が女性を部屋に呼んで出せる食事とか、それはちょっと市のイベントではやりにくいかもしれませんけれども、アレンジの仕方とかいろいろあると思うので、機会がありましたらお声をかけていただければ、お店等も含めて紹介ができるかなというふうに思います。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

これは市報に載るのですか。

○松井委員 これは、割と潤沢に予算があったイベントだったので、全部折り込みチラシとか、あと、フェイスブックとか、そういったもので全部募集をしています。通常、余りお金がないときは、市報とかを使ってやるのですけれども。

○南会長 市報を使わないで、そういうフェイスブックとかチラシが人が集まりますか。

○松井委員 市報って、よく見ていただいている方はよく見ていただいているのですよね。見ない方は全く見ていないというところがあって、市の方がいらっしゃるところでこんなこと言ってはいけないのですけれども、例えば、お子さんがいらっしゃる方なんかは、予防接種だとかそういったもので結構よく見るのですよね。あと、御高齢の方なんかよく見られたりとかするのですが、その間のところの方というのは割と見ていないパターンが多いというふうに感じていますので、いろいろ組み合わせて使っている状態です。

あと、うちの小金井新聞という地元紙というか地域紙みたいなものがあるのですけれども、そこにも出しています。それは記事として掲載してもらったりとか、あと、J:COMとか、細かくいろいろなところに連絡を入れて、取材に来ていただいたりとかという形で、お金はかからないような形も使いながらやっています。

○南会長 ありがとうございます。

市役所って、ホームページにフェイスブックというのですか、リンクできるようなところはあるのですか。

○平岡主査 今は、フェイスブックのリンクとかそういったことはないですね。

○南会長 そういうところでつぶやけるといいのではないのでしょうか。どうでしょうか。今、市のほうでのいろいろな催し物で人が集まらなくて困っている場合など、何かアイデアを盗むわけでもないのですけれども、ちょっとはお知恵を拝借して、人集めが。

○松井委員 全面的に協力できることもありますし、こうした方がいいのではないですかとか、ここだけ

の話にしておきましょうとかということもあると思うので、とりあえず言ってもらおうと。前回、菊谷先生のお話をお伺いして、東小金井南口の商店会さんの話を先にさせていただいたんですが、そのときは、「そっかあ」という感じだったのですけれども、その後、見に行ったということで、ちょっと進んだというふうに聞いていますので、商売的にちょっと芽があるなというものは、逃さずいろいろなところまでされていくつもりですので、声をかけていただければ、動くのはやりますので、言ってください。

○南会長 ありがとうございます。

では、次に、事業者の立場から……、次に、菊谷委員のほうから、地域の農産物を利用したスマイルケア食の商品開発・普及の取り組みということについて、説明していただければと思います。

○菊谷委員 菊谷です。まさにその辺の、御自宅に在宅の訪問で行っていて会議に遅刻したのですけれども、そういう訪問の現場で、かむことや飲み込むことが難しくなった方にとって、この間も御紹介をしましたが、いわゆる介護食というのが、これも重要なツールとして、きょうの議事次第の資料でファイリングしていただいている後ろのほうに入っていると思います。「新しい介護食品（スマイルケア食）」という、これ、農水省が、なかなか進まない介護食の認知度をいかに上げるかというような取り組みで、丸2年ちょっと前ぐらいから、この新しい介護食という介護食品を普及させる取り組みをしまして、当初から委員で参加させていただいているのですが、さすがに2年ちょっとを越えたところで、こういう選び方のフローチャートをつくったり、あとは実際に商品化されている介護食品に対してこのマークをつけるという取り組みや、あとは例えば、宅配弁当や、普通に店先で売っている弁当も、これに相当すればこのマークをつけて、なるべくかむことや飲み込むことが難しくなっている方にわかりやすく提供できないかというようなことで、まだちょっとけんけんごうごうしているところなのですが、そういう取り組みが進んできています。

そんな中で、今年度、農水省が医福食農連携推進環境整備事業という、介護食品の普及支援事業、農場産の食品を使った介護食品を開発、普及せよという事業が公募されたのですね。ちょうどこの食育の会議にも出させていただいて、皆さんのお話を伺っていたこともあり、やってみたいなということで、江戸東京野菜を使った介護食品ということで、提案を年度末にさせてもらったのですが、これほどまでに事業費が巨額な事業費だということが、やればやるほどわかってきて、実はシュリンクしてしまったのですが、当初は200万ぐらいの予算規模で、2分の1補助事業なので、我々が100万出して、100万農水からもらえれば、200万あればそこそこ仕事ができるかなと思ったのですが、いろいろ制約があって、残念なことに、二十ウン万円ぐらいのところまで絞ってしまったのですが、というのは、私たちが当初やりたかったのは、地元の農産物を使ったまさに介護食を開発して、東小金井商店会さんにも御協力をいただいて、黄金やさん等でそれを販売したり、うちのクリニックのヘルシーフードさん

の売店で販売したり、または紹介をやったりというようなことで、イベント風に仕上げたかったのですが、今回の補助金を使ってなかなか、物売ってはいけないとか、例えば、介護食教室をやっても参加費はもらってはいけないとか、手かせ足かせになってしまったものですから、だったらほぼ今まで我々がこれらの活動でやっている中で十分できる仕事なので、予算規模は小さくしましたが、東小金井商店会さんと我々と、あと、うちのクリニックの売店に入っている日本一の介護食品の通販会社、ヘルシーフードさんと3者で組んで、介護食を地元の野菜を使いながら開発し、それを黄金やさんやうちのヘルシーフードさんの売店で無料試食体験をするというようなところで今年度というような形で、一応、きょう、先ほどメールが来ていたのですが、最終申請をしたという段階で、実は、申請の段階でいろいろな規制があったものですから、僕らも、当初やりたかったことと大分違ってきてしまったこともあり、これで通らなかつたらもうやらないぐらいの感じなので、どうなるかわからないですけれども、多分大丈夫だと思いますが、ぜひこれはやってみたい事業だったので、させていただきたいなというふうに思っています。

開発、具体的な商品のイメージとしては、スマイルケア食の「A」「B」「C」と書いてある、上の段階ですね。弱い力でかめるとか、歯茎で潰せるといったぐらいのイメージの食品で、一応、今、農水に申請している——具体的なメニューも書けと言われて、これから考えるんだけどなと思ったのですが、出ているのが、東京夏野菜カレーとか、やわらかネギマ鍋とか、東京野菜のグラタンとか、それに対して、小松菜とか亀戸大根とかそういうのとか、カブを使ったりという、それを一体どこから仕入れるのかと。黄金やさんを通じて自営さんから仕入れようとか、そういうのを今申請書に書いているところで、この農水の事業とは別に私たちがしたかったことは、かねてからクリニックを中心にやっている、食べることが難しくなった方への介護食——私たちは摂食嚥下食、調整食と言っているのですが、それらの普及と、あとは、実際にJRの高架下にあるレストランと、障害を持った子どもたちの交流パーティーをこの間やったのですけれども、そこを借り切って、そこではレストランが全部嚥下食をつくってくれて、我々が全部試食して、これをこういうふうに工夫してねと言って試食して、二十数組の親子に食べていただいて、そこで患者さんと、患者さんの家族と子どもたちの交流を図ったという会をやっていて、その延長として、地域の食堂だったりお弁当屋さんだったりというところが、こういう介護食が気軽に提供できるような場が地域にできればなというのが目標だったものですから、そういう起爆剤になればなと思って、今回の農水事業に一応応募はしたということです。

ただ、万が一これが落ちてても、イメージとしてはついたので、別にこの事業費がおりなかったとしても、ぜひ商店会さんとはやりたいなと思っているところです。また、皆さんの御意見というか、御協力をいただきながら、ぜひさせていただければなというふうに思っているのです、また御相談をさせていた

だきたいと思います。

以上になります。

○南会長 ありがとうございます。

そのほかに事業者の食育活動に対する促進策について、何かございますでしょうか。

無いようでしたら、次に、各種団体などの食育推進活動に対する促進策について、酒井副会長からお願いいたします。

○酒井副会長 22ページの、「各種団体等の食育推進活動に対する促進策」というのを見ていただきたいのですが、一応、食育関連団体登録制度というのが小金井市にありまして、実は、この中で登録しているのは私と雀部委員が登録していると思うのですが、ただ、こういう登録制度があるのですが、過去、私、二、三回ぐらい参加しているのですが、もう何年か会議が持たれていなくて、団体さんがその当時から減っているのかふえているのかということもわからないので、実際、食育関連団体で情報交換をしているということは今はないので、これからもう一度見直しをしていくことが大事なのではないかなと思いますし、やっぱり食育活動をしている団体が市内にどのぐらいあって、どんな活動をしているかということ、やっている者同士で共通認識をすることはとても大事ではないかなというふうに思うので、これは今後の課題にもなるでしょうし、今後、食育コーディネーターのことを話し合う上でも課題になってくるのではないかなと思うのですが、事務局のほうで何か補足がありましたら、お願いします。

○高橋課長 事務局です。副会長がおっしゃられたとおりだと思っています。22ページのところに載せている施策なのですが、特に関連団体については、今、事実上、休止状態というか、何も活動がされていない状況です。それで、団体の調査についても、行政としてもどういう調査が一体有効なのかということも含めて、手詰まり感があるというか、なかなか、市内にもいろいろな公式、非公式も含めて団体がある中で、やっていらっしゃる方たちもそれが食育の取り組みという視点でやっていないケースもあるでしょうし、任意団体さんの場合、継続しているとかいないかというような問題もあると思っていますので、その辺をどうやったらうまくつくり上げていけるのかなという部分もあって、手詰まり感があるわけです。我々行政も一定程度絡んではいくのだけれども、やっぱり民間とかの取り組みというのが、少し自発的にネットワークが広がっていったりしてくれると、市全体として、食の取り組みということが根づいていくのではないかなというような思いもあります。行政だけが頑張ってもだめなのだろうなというふうに思っています、そういったことも含めて、22ページの施策について、大きな課題だろうという認識であります。

○酒井副会長 酒井ですが、多分、食育基本法ができて、その絡みでこういう制度も設けられてきたと

思うのですが、まだ皆さん、行政側も私たちの側もなれていなかったもので、どういうふうに構築していったらいいのかということがなかなか案としてたくさん出てきていなかったというのが事実だと思うので、大分食育に関しても皆さん周知されてくるようになってきたので、また新たに皆さんと話し合いを持って、どうやったら関連団体をうまく回していけるかとか、みんなで協力して何かやっていけるかとかということを考えていく。割と時間がたっているのですが、今まで活動はされていなくても、だんだん食育自体の周知がされてきていると思うので、これからはまた最初の段階とは違った意見も出てくるのではないかなというふうに期待が持てるのではないかなと私は思っています。

○南会長 ありがとうございます。

今、いろいろな方からさまざまな取り組みを紹介していただきましたけれども、ほかに意見や提案などがありましたらお願いしたいのですけれども。

○鈴木委員 鈴木です。先ほど、事業者の食育活動に対して伺ったのですが、イベントですとか行事をするに当たって、市民の方の反応というか、とても反応がいいのか、それとも結構広報しないと人が集まらないのか、市民の方の参加の、何ていうか、盛り上がりというのはどういう感じなのでしょう。

○松井委員 松井です。割と声かけはやっぱりするのですよね。お知り合いの方なんかにも声をかけたりとか、ちょっと時間も、あえて狙ってやっているのですけれども、中途半端な時間ではあったので、お声かけをしながらというところと、単純に見て、本当に普通に申し込んでこられた方もいらっしゃいますし、知り合いなんかにも、当初迷って、要は、一人しかいないのでちょっと行きづらいなとかというのはあると思うのです。特に女性なので、誰も知らないところに行くのはちょっとというのもあったりとか、そういう場合は、知り合いの人たちといろいろ、ぜひ来てくださいという形で、ちょっと声かけをしたりなんかして、集めたという大変ですけども、まとまった感じですね。なので、半分ぐらいが自発的に来ていただいて、半分ぐらいは知り合いだったり、知り合いの知り合いだったりとかというのとか、あと、1人、知り合いの方が来て、後から追加で大丈夫ですかという形で連れてきていただいたりとか、そういうパターンですね。

○鈴木委員 割と一人でも行ってしまおうというか、そういう方も結構いらっしゃる。

○松井委員 そうですね。一番最初に申し込んでこられた方は結構御高齢の方で、その人は、私はこういうの全然気にしないからどうぞとかと言って、最初から、もう一回最後に、終活って、エンディングノートとかお墓とかそういうほうの、葬儀屋さんにもちょっとコーディネートしてもらったのですけれども、そういうのを3回やったのですが、全部最初から申し込まれた方とかもいらっしゃいましたし、一回来ると次も来てとかいう方もいらっしゃいましたので、興味があることで時間さえ合えば、割と来たいという方はいらっしゃるのかなとは思いますが。

○鈴木委員 私も何か機会があれば参加したいと。ありがとうございました。

○松井委員 ぜひよろしくをお願いします。お子さんぐらひは私が見ますので。

○鈴木委員 ありがとうございます。保育つき。

○松井委員 全然見ていられますので、そんなに大きいイベントではないので、みんなでかわりばんこでちょっと見たりとか、実際、お子さんの相手をしながらやっていたので、ぜひもし機会があったら、参加……。

○鈴木委員 おいおいお店とか、全然知らないで入りにくいところはいっぱいあるので、こういうのがあると親しみが……。

○松井委員 お店は、特に飲食店のほうは、知らないで、行って外すとすごくショックがでかいじゃないですか。おいしくなかったとか、感じ悪かったとかというのはやっぱりあると思うので、実際こうやるとお店としてもちょっと足が出てしまうところだと思うのですが、やっぱり知ってもらって、ちょうどこれは11月にやったイベントだったので、その後の宴会を入れてもらったとか、何件かあったみたいなので、それはそれでよかったかなという。

○鈴木委員 お互いに……。

○松井委員 はい。と思います。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○南会長 松井委員がやっているそういうイベントは、毎年行っている感じですか。

○松井委員 お金次第なのですけれども、これも先ほどの菊谷先生みたいに、補正の予算で出てきた補助金があったので、そういう申請を出して、やったのですね。ちょっとしたイベントみたいなことは、各店で独自にやっていらっしゃるところもあるのですけれども、チラシをつくって折り込みしたりとかというものに関してはなかなかそこまで経費が出なかつたりするので、そういう部分をかなり補助金を使って賄ったような形ですね。あと、チラシとかポスターを、学芸大学の学生さんにデザインとかをしてもらってつくったので、そこら辺はうまく組み合わせながらやらせていただきました。

○南会長 うちの学生は美術とか書道とかいろいろ、音楽科もありますしね。

○松井委員 そうですね。

○南会長 ちょっとしたバイト代でいろいろやってくれるのではないかなと思いますので、是非声をかけていただくといいかなと思います。

○松井委員 今回、そのチラシも、女の人が読む雑誌風なチラシにしてみたいのですけれどもみたいな感じで、つくってくれたのですよね。最後の、僕がでかく載っているやつは、表は雑誌風のやつの大きい判なのですけれども、裏は選挙公報みたいな形で、これは実際商店会の名前を変えましょうみたいな

のもあって、それを選挙形式でやってみましょうみたいな話だったのですけれども。

○酒井副会長 これ、おもしろかったですよね。

○松井委員 ありがとうございます。

○酒井副会長 また見てみます。

○松井委員 やっぱり私だけでは出てこないアイデアとかもあるので、そういうのは学生側の連携を使ったりとか、いろいろなところと連携してふだん活動していますので、提案というか相談をいただければ、戻せるところもあるかなというふうに思っております。

○南会長 ありがとうございます。今の若い人は楽しみがいっぱいあるので、結構先々まで計画とか予定が入ってしまっている場合があるのです。こういうイベントも息長く毎年というか、年何回かとかというふうにしてもらえると、あのとき逃したけど今度は行ってみようというふうな形になるのではないかなと思っています。単発で、その年だけしかやらないというのではなくて、毎年、春はこれ、秋にはこれというような、そういう形で常にやっていただけると、口コミでじわじわと広がるのではないかなと思うのですよね。

○高木委員 高木です。済みません、同じ、関連で。掲示板なんかにも結構ポスターを張られていたのでしょうか。

○松井委員 掲示板は、市の広報掲示板というのがあって、あれは一応申請をすれば、期間とかそういうのが……。

○高木委員 2週間。

○松井委員 ありますけれども、できますね。そのときは、お願いしてあったのだけでも、最終的にやったかどうか僕も忘れてしまったのですが、あとはいろいろな知り合いのお店とかに張っていただいたりとかいう形ですね。あと、商店会なんかも掲示板を持っていますので、そういったところなんかも使ってやった感じですね。

○高木委員 とても興味深い内容だったのですけれども、私、前原町5丁目に住んでいて、東小金井から結構離れているので、東小金井の商店街の掲示板とかまでなかなか見ることができなくて、でも、フェイスブックでもアップされていたとのことなので、ちょっとまたのぞいてみようかなと。

○松井委員 よろしくお願いたします。結構、フェイスブックとかそこから辺、ツイッターとかそういうものは、見ていらっしゃる方は主体的に情報を取り入れたいという方だと思うので、そういう方にリーチできると割とスムーズに申し込みまでつながったりとかしますので、イベントとかはやっぱりそういうのを使ったほうがいいかなとは思いますが、基本的に無料ですし。

○南会長 今まで紹介されたいろいろな取り組みは、食育ホームページには載せてもらっているのですし

ようか。

○酒井副会長 ないですね。

○南会長 載せていないですか。

○酒井副会長 ないです。商店街さんのイベント……。

○南会長 イベントとか、いわゆるさっきのJAの取り組みとか。

○雀部委員 ホームページの副編集委員長の雀部です。基本的には、イベントスケジュールは今、項目はあるのですけれども、市報に載っているのを基本として載せているというだけなので、それ以上の情報が上がってくるすべがないというか。

○南会長 じゃ、連絡すればやっていただけるのですか。

○雀部委員 一応、市から委嘱されているホームページなので、市からオーケーをいただければ載せられるのでしょうかけれども、その辺はまだという形ですね。

○南会長 その辺の整備というのですかね、連絡はどのようなしたら良いのでしょうか……。

○雀部委員 もしくは、食育ブログというのが中にあるので、それは結構リアルタイムな情報を載せやすくはなっている形なので、そういうところで、例えば、個人的に紹介という形で、ホームページ委員の中で上げたい人がいれば、情報をもったら上げるという形にすると、また媒体としては広がるかなと思いますけれども。

○南会長 またそれも、集客の一つのツールになるのではないかと思うのですけれどもね。

○酒井副会長 一応、所管の健康課さんがオーケーを出してくだされば、どんな情報でもホームページ編集委員会は載せると思いますが。

○南会長 その辺がいかがでしょうか。

○酒井副会長 どうでしょう。

○高橋課長 過去にいろいろ所属長がかわるごとに、具体的に言えば健康課長がかわるごとに、いろいろな考え方もあったと聞いておりますが、私的には、基本的に編集委員会のほうで自主的にやっている内容でもありますし、行政と同じ目線で、同じ基準でやる必要は全くないというふうには思っているのですね。もっと民間ベースで小回りのきくところとか、逆に、我々ができないようなことについてやっていただくのが有効かなと。例えば、行政がやるとなると、情報発信も漏れなく全てみたいな話になるのだけれども、そうではなくて、ボランティアの人たちがやっていることなので、例えば、そこは知っている情報だけでもとか、入った情報だけでもとかというふうにも思ったりもしますし、個店の紹介なんかも過去に相談を受けたことがありますけれども、私としては、それは別に商業振興の視点もあるわけですので、個店の紹介をしていただいても構いませんよというようなことで申し上げてい

と思います。ですので、ある程度自由にというか、何でもいいというわけではないのですけれども、我々がやりにくいような部分のところをうまくフォローしていただけると広がるのかなと。

松井委員のほうからも先ほどありましたように、SNSはやっぱりすごく有効だなという思いはあります。市のホームページでは、ツイッターはあるのですけれども、あれは緊急時のということなのですよね。だから、どうしても行政がやると、ツールはあるのだけれども、何でもいいよというわけではなくて、これは緊急のためのものだからふだんは使っちゃいかんよみたいな、理屈になってくるので、そういうところをやっぱりホームページの編集委員会さんとか、今後、例えば、今日も少しお話しになると思いますけれども、コーディネーターさんとか、そういう方たちの力を借りながらうまくフォローしていけるといいのではないかなというふうに思っています。

○酒井副会長 ちょっといいですか。1つ、逆パターンの例なのですが、この間、健康課さんのほうから、20歳以上で39歳までの男女の健康……、あれは何でしたっけ。

○田中管理栄養士 健康教室。

○酒井副会長 健康教室ね。それをホームページのブログに上げさせていただいて、それをフェイスブックにシェアをして流したのですね。そうしたら、逆に、フェイスブックを見ていただいて、それをシェアしてくれた方が多分90以上、100を超えているかもしれないのですけれども、それだけやっぱりそういうものを使うと、見てくださる方の幅がふえるというのが証明されたなと自分でもすごく感じているので、そういう意味では、今、課長におっしゃっていただいたように、民間だろうと行政だろうと、それはある程度はいいよということがあれば、そういう楽しいイベントとかも、まさに食育が絡んでいますから、どんどん発信していくといいのかもしれないと思います。それで、松井委員なんかはすごくフェイスブックを活用されていますので、そういうのをフェイスブックに私たちが上げれば、多分松井委員も拡散していただいたりもできると思いますので、そういう意味では、ホームページをもうちょっと活用していてもいいのかなというふうに思います。

○雀部委員 雀部です。今、ちょうどサイトのリニューアルを図ってしまして、割り振りを決めようかなという段階なので、これを機にもうちょっと情報が上がってくるような形を少し構築して、その中で、できれば理想の形はイベントとして紹介——項目がありますから、それで項目の説明をして、もし説明し切れない分は、例えば、ブログで詳しくとか、取材に行かせていただいたりとか、お話を聞いたりとか、上がってきたものをできるだけ紹介できる形に、もうちょっとフランクな形でできるといいなとは思っています。ちょうど来週会議があるので、そこでもちょっと話をまたしてみたいなというふうに思っています。

○南会長 ありがとうございます。

ほかに何か御意見とか提案がありますでしょうか……。

○**雀部委員** 雀部です。別な項目なのですけれども、食育関連団体の活動の調査の中に、事業内容の中に、自治会とか町会というふうに入っているのですけれども、これ、実際の例なのですが、昨日、緑児童館でおやつ講習会を、私、講師としてやらせて、もう6年ぐらいになるのですけれども、10名ぐらいのお母さんたちが、保育つきで。保育は、地域のお母さん、先輩ママのお母さんたちにやっていただいているのですけれども、皆さん、子どもが小さいうちは地域にいらっしゃるのですが、だんだん離れてくると働きに出られたりして、なかなかボランティアの確保がここのところしづらいなというふうに感じていたのですね。保育つきというのが結構売りだったので、それで安心して参加されている方がすごく多かったので、食育のそういう講習会としては保育があるのが、一番お母さんたちが落ち着いた話が聞けるということで、どういうふうにしていけばいいだろうという中で、児童館の職員の方が多分考えられたと思うのですけれども、地域の第三町会というところに声をかけまして、そうすると、個人で知り合いの方がいたものですから、町会のほうに声をかけると一気に広がって、昨日、五、六名のおばあちゃま世代というか、シニア世代の方が来てくださって、保育のボランティアに入っていたいたのですね。やっぱり手があると子どもを見る目がふえるので、お母さんたち一人一人の負担も減り、とてもいい取り組みだと思ったので、こういうものも、小さいことなのですけれども、直接には食育をやっているのは私とか講師だったりとかするのですが、陰でサポートしてくださる方で町会がかかわるとか、人材があったりするものですから、そういう意味では、そういう活動をしていることも拾い上げていったほうがいいのかなというふうにすごく感じました。すごく力になったので。

いろいろなところで保育つきというのがあると、子育て中のお母さんは参加しやすいのかなという一つの例で、今後そういうことが広がっていけばいいなと。いろいろなところに町会はあると思うので、声をかけたら意外と、声をかけられたらやってみようかなという方もいらっしゃると思うので、すごくいい取り組みだと昨日感じました。

以上です。

○**南会長** ありがとうございます。

ほかに何か。

○**松嶋委員** 松嶋です。今まで話したこととそう関係があるわけではないのですけれども、学芸大の中にカフェができるという話を……。

○**南会長** 20日オープンなので、昨日ですかね。

○**松嶋委員** 松井さんのシェアで知りました。

○**松井委員** 昨日、あいていた……。

○松嶋委員 それで、それを見て思っていたのですけれども、やはり食育活動をする上で、場所がなかなかなかったりとか、人手がないということで、もしできればそういうカフェとかと連携して何か食育活動ができれば、学生さんにも食育の普及もありますし、場所もあっていいなというふうに、そのカフェに私は非常に期待していますので、詳しいことはわからないのですが、そういうところの活用もいいのではないかと思います。

○南会長 きょうオープンしたカフェは、そんなに大きい面積ではないのですよ。もし何か連携してというのだったら、生協とやっていただくと良いかもしれません。1学年1,000人いますので、対象の学生は大学院までで5,000人近くいますので、対象人数はすごく多いですよ。

○松嶋委員 大学の中でそういう食育の何かを市民が提案してやるというようなことは可能なのでしょうか。

○南会長 可能だと思いますね。独法化以降は結構何でもオーケーという感じですから、地域と連携して大学が事業をするというのを文科省は推進していることですので、大丈夫かと思うのですけれども。

○雀部委員 地方から来られている学生さんとかは一人暮らしの方も多と思うので、簡単ですぐできる料理教室とかというのをやったら、一番効果がありそうかなという気はするのですけれども、そういうのはどうでしょうか。

○南会長 最近の学生……、私もそう思ったのですけれども、それは私の抱えている学科も、つくらない子が結構増えているのですね。それは、下宿のコンロが電熱器なのです。そして、お湯を沸かすのがやっとならなくて、すごく火力が弱いらしいのですね。だから、そこで料理をする気にはならないらしいのですね。ですから、炊飯器で御飯を炊くとか、あと、電子レンジでチンをする、そういう形の料理教室だったらいいかもしれないのですけれども、本格的な、ガスコンロでいためるとか煮るとかというのは、難しいみたいです。

○雀部委員 家庭科の生徒さんでそれは不安ですね、先行き。

○南会長 というか、いわゆる調理台がないらしいですね。電熱器の横が流しで、調理をするというスペースがないらしいです。学生のキャリアアップのための下宿での調理講座をやった事があるのですが、やりたくても、下宿がそういう形なので、ちょっとできないということでした。

○雀部委員 わかりました。

○酒井副会長 残念なお話ですね。

○南会長 別な形だったらいいのですけれども、それこそさっき言ったように、電子レンジでいろいろなものがつくれますよね。炊飯もできるし、パウンドケーキもつくれるし。レンジを活用したパンをつくったりできますから、そういう形のクッキングだったら、ひよっとしたら物珍しいというか、簡単に

調理できるのかしらという興味で受講する学生はいるかなと思います。

○雀部委員 わかりました。

○南会長 他にいかがでしょうか。

では、いろいろ意見をいただいたので、事務局のほうでまとめていただくということでよろしいでしょうか。

○平岡主査 では、事務局からなのですけれども、前回の会議で、提言書の素案の作成と、食育コーディネーターの具体的な役割の検討等を行うため、酒井副会長を中心に自主的勉強会の立ち上げを行うということが決まっております。これは、あくまでもボランティアという形になりますので、報酬のお支払いができない会とはなってしまいますので、そここのところ、御承知おきいただきたくお願いいたします。

では、自主的勉強会の立ち上げについてちょっと。

○南会長 それでは、早速なのですけれども、勉強会に参加できるという方、挙手いただけるとありがたいのですけれども。

○松井委員 日にちさえ合えば。

○南会長 日にちさえ合えば。副会長と雀部委員、鈴木委員、高木委員、松嶋委員と鳥羽委員、それと松井委員と土屋委員と吉田委員、菊谷委員。ほとんど全員ということで、ありがとうございます。あくまで自主的な勉強会ですので、固定したメンバーだけじゃなくて、皆さん、日程をお知らせしますので、なるべく多くの方に参加していただければと思います。

では、日程については、この会終了後に、調整を行いたいと思います。

続きまして、食育行事について、管理栄養士の田中さんからお願いします。

○田中管理栄養士 今年度の食育行事についてですが、今年も小金井青年会議所主催のキッズカーニバルに食育ブースを出展いたします。

5月18日に第1回目の実行委員会を開催しまして、実行委員会には、食育推進会議からも酒井副会長、雀部委員、松嶋委員の3名、公募市民より6名、合わせて9名の方に御参加いただいています。実行委員長には雀部委員、副実行委員長には松嶋委員に就任いただきました。

今年の食育ブースの内容としましては、毎年御好評をいただいている野菜の計量体験、箸で豆づかみ体験、野菜スタンプを使ったお絵描きコーナーに加えて、本年度新しく、「バランスを考えよう」食品分類ゲーム、野菜クイズのコーナーを予定しています。

実施日程は、5月31日日曜日10時から午後3時まで、東京学芸大学の芸術館での開催となりますので、委員の皆様も御都合が合えば、ぜひいらしてください。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

では、委員長の雀部委員から何かありますでしょうか。

○雀部委員 数年前からこのキッズカーニバルに、ジョイントという形で食育のイベントをやらせていただいています。食育月間は本来は6月なのですが、日にちが近いということで、今年は5月31日にキッズカーニバルの中に食育ブースを設けてやっているのですが、お子さんがいるいないにかかわらず、ぜひ委員の方には来ていただきたいと思うのが、かなり食育に対する小金井の親子とか、保護者と子どもの反応がつぶさにわかるかなというふうに思いますので、短い時間でもいいですので、足を運んでいただけるといいかなと。できれば、豆つかみゲームなんていうのは大人も白熱する、1分間にどれだけ豆をつかめるかというゲームなのですが、すごく単純なのですが、結構対戦相手がいると燃えたりとか、市長も実際来られて、やったり、親子対決あり、ママ対決あり、過去、いろいろなバトルが繰り広げられて、結構食育というかたいイメージを持たれている方もいるのですが、随分楽しみながら、特別、事業者がやっているわけではないので、お金がすごくかかってゴージャスなイベントではないのですが、その分アットホームで温かみのある小金井らしいイベントだなとすごく思うので、ぜひ芸術館のほうに足を運んでいただける時間があつたらうれしいなというふうに思います。なかなかこういうところでいろいろなところがやっているイベントなんかのお話を聞いても、実際見ると話を聞くのでは全然違うと思うので、できればどんなものかなとのぞいていただけるとありがたいと思います。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

そのほかに委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、本日の会議以降に何か意見が出てきた場合は、事務局のほうにお願いいたします。

本日の議事は以上で終了ということになりますが、次回の開催予定について、事務局のほうからお願いいたします。

○平岡主査 次回の開催予定なのですが、8月から9月にかけて、平成27年度第2回の会議を開催させていただければと存じます。詳細な日程につきましては、幾つかまた候補日をお送りさせていただきます。参加できる方が多い日程で開催をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○南会長 ありがとうございます。

では、ただいま事務局から説明してもらった流れでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、そのように準備を進めさせていただきます。

では、以上をもちまして、平成27年度第1回小金井市食育推進会議を終了したいと思います。皆様、本日はお疲れさまでした。

— 了 —